

## 「特定外来生物ナガエツルノゲイトウ・オオバナミズキンバイ船上調査」

美しい手賀沼を愛する市民の連合会 会長 八楸雅子

今年度は繁茂が著しい7月と冬季1月の2回調査を行いました。7月の調査後、9月～10月に台風15号、19号、21号の影響の低気圧が千葉県に大きな被害をもたらしました。幸い、手賀沼はこれらに直撃されることはありませんでしたが、大きな影響を受けました。

3回の台風及び低気圧では、手賀沼周辺では内水洪水も含めて、洪水・浸水被害はありませんでしたが、台風15号(9月9日0時～24時:112.0mm)、台風19号(10月10日～13日:150.0mm)、10月25日の大雨(25日0時～24時:193.0mm)という大雨が降りました(いずれも我孫子地域気象観測所の値)。風は特に台風15号の時に東の風が強く、19号とその後の大雨の風向きは主に南～南西系でした。

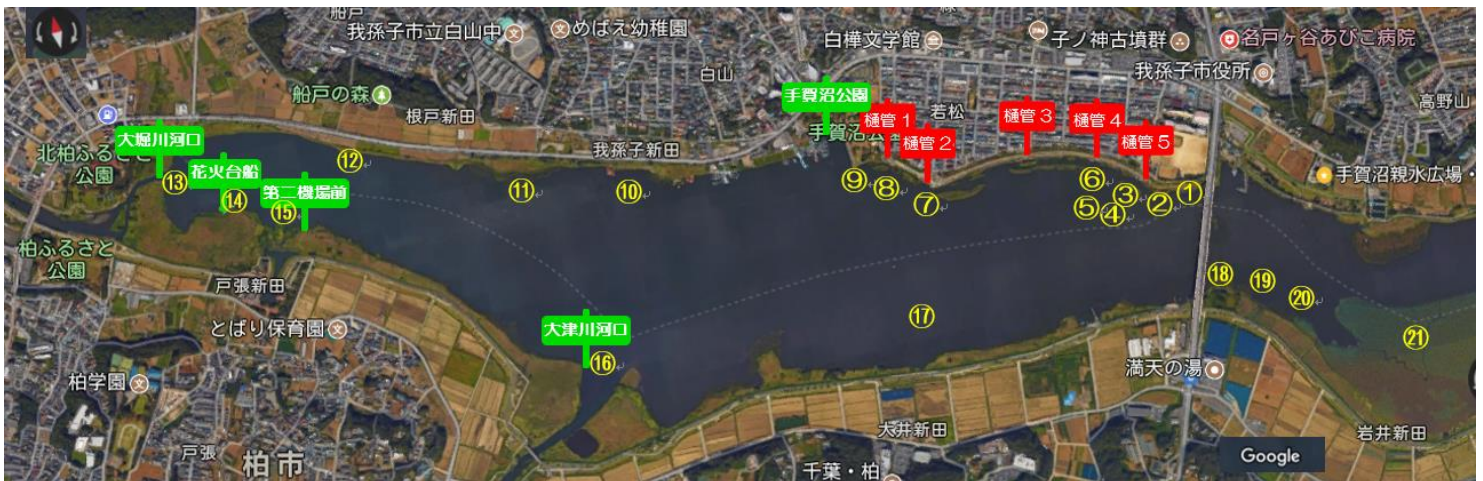
その結果、沼の北岸には、2回目の1月10日の時点でもまだ、台風等で打ち寄せられたナガエツルノゲイトウ(以下、ナガエ)・オオバナミズキンバイ(以下、オオバナ)の枯草がゴミと一緒に打ち上げられていました。一方、南岸では、ヨシ群落に引っかかっていたものは、ほとんど見当たりませんでした。

以下、2019年7月8日と2020年1月10日のナガエ・オオバナの繁茂状況を手賀沼の湖岸の目視調査した結果を比較し報告します。

### 【2019年7月8日 9:00～11:15】

参加者：滋賀県自然環境保全課中井克樹さん、滋賀県立大学 上河原献二さん、千葉県立中央博物館 林紀男さん、県水質保全課2名、柏市環境政策課2名、いであ株式会社3名、美手連7名

#### <調査地点>



### 【2020年1月10日 10:30～12:30】

参加者：滋賀県自然環境保全課中井克樹さん、千葉県立中央博物館 林紀男さん、県水質保全課1名、美手連4名

#### <調査地点>



<調査結果> ※番号は1月10日調査地点 【2019年7月8日】

【2020年1月10日】

③第5樋管（我孫子高校付近）

7月はほぼオオバナと思われたが、水際線に近いやや薄い茶色部分はナガエが優勢。水面に伸びているのもナガエの芽。奥のほうのヨシ帯と接している濃い色がオオバナ。



⑤植生帯との間の水路

1月でもオオバナは、まだ緑色を多く保っている。コブハクチョウがオオバナを食いちぎっているようだ。中井さんから、この部分は当面は、ここが供給源とならないようにフェンス等で封じ込めておくと良い、というアドバイスをいただいた。



⑩第1樋管の手賀沼公園側

予想よりも枯草の堆積量が少なかった地点。他の地点からの流れ藻が見当たらなかっただけでなく、ここに繁茂していたナガエ・オオバナが、流失していた。



⑯北千葉第二機場前

以前の広大な『ナガエ・オオバナ大陸』は、残っていた部分も流失して、ますます群落小さくなったようだ。でも、一度衰退したヨシ帯は、復活しそうにない。



⑱ハス群落

2019年はハスの成育が非常に悪かったため、枯れ枝も少なく、ハス群落の中にあつたナガエ・オオバナの群落は、すべて流されてしまったようだ。枯れた茎が残っていたヒメガマ群落の間にあつたナガエ・オオバナ群落が、かろうじて残っていた。



1月の船上からの目視調査では確認することはできませんでしたが、まだオオバナの大規模群落が確認されていない下沼でも、昨秋の台風等の際に上沼から流されてきた、ちぎれた小さな片々がヨシ群落等の間に入り込み、これから大増殖を始める危険性が高いという指摘が、中井さん、林さんからありました。夏季の大増殖の前に、発芽したナガエ・オオバナをていねいに摘み取る必要があります。

通常であれば、ナガエもオオバナも水上部分はほとんど枯れて、水中でのみ越冬しているのですが、今年は暖冬のためか、陸生のナガエ・オオバナは枯れていても、水上に張り出しているものはまだ枯れずに成長を続けていました。特に、オオバナの元気なことに驚かされました。

## 「手賀沼のハス群落分布縮小検証活動」 美しい手賀沼を愛する市民の連合会 会長 八鍬雅子

現在、手賀沼南岸、蓮見展望台前の岸边から沖へ20～30メートルの幅で、東西に渡り、広範囲にハス群落が消滅しています。その原因を究明するために、岸側と沼側からハスの地下茎を掘り起こし調査しました。

**【2019年9月24日 13:25～15:00】**

参加：千葉県立中央博物館 林紀男さん、柏市環境政策課 2名、我孫子市手賀沼課 1名  
いであ（株）1名、手賀沼の小池1名、美手連 12名  
調査場所：手賀沼南岸 蓮見展望台周辺



2016年9月14日撮影  
岸までびっしり繁茂していた



2019年9月24日  
ハスは沖に後退している



ハス群落が消滅した  
大まかな範囲



地下茎が痩せ細っている。  
特に横走の地下茎が委縮。  
腐っているものもある。



水面をよく見ると  
メタンガスの泡が  
上がってきている。

デッキ下に足を踏み入れると、ズブズブはまり、メタンガスが大量に出てくる状態、危険。  
田舟を並べその上を渡り移動する。ハスの周りをエンピで慎重に掘り下げ採取。



沖合のハス群落まで  
船外機で移動し、採取



沖合のハス群落も  
例年より勢いが無い

やや太い地下茎

沖合の地下茎も  
痩せ細っている。

### 【林紀男さんのまとめ】

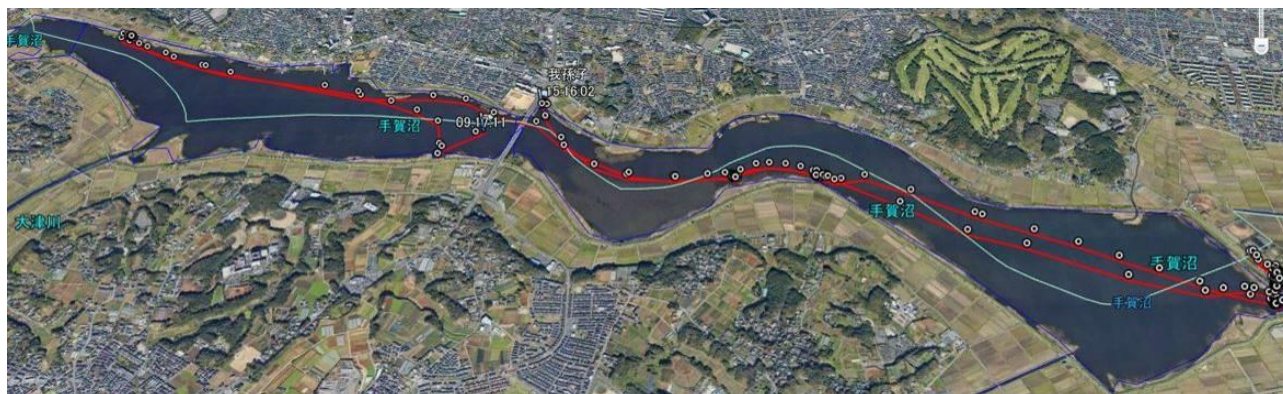
- ・ハス枯死は、底泥に蓄積したメタンガスが影響していると推察される。
- ・メタン発酵の原因は、過剰な有機物と考えられる。
- ・水田などで発酵不十分な堆肥を過剰施肥するとイネの根が痛めつけられイネが立ち枯れする現象と同じ。
- ・メタン発酵を促すに至った過剰な有機物の由来は断定できない。  
過剰繁茂したハス枯死体が長年にわたる累積が有機物起源のひとつと推察できる。
- ・コブハクチョウが、ハスを食害した形跡は今回の調査では認められなかった。

# 「手賀沼魚類・貝類・プランクトン調査」

手賀沼水生生物研究会

鈴木盛智

【2019年10月5日(土)9:00~15:00】 参加 17名



		根戸新田 9:40~10:10		見晴らし台 10:45~11:15		フィッシングセンター棧橋 11:45~12:45		フィッシングセンター向い 13:10~13:40		岩井新田 14:15~14:45	
		船1	船2	船1	船2	船1	船2	船1	船2	船1	船2
モンドリ4個による捕獲数	モツゴ	6	81	106	66	84	152	27	18	6	3
	ギンブナ										
	タモロコ				3						
	ツチフキ		1			6	3				
	タイリクバラタナゴ	1	11	3		2	13	1			
	ヨシノボリ								1		1
	ヌマチチブ			1		1	1	1			1
	スジエビ		13	7	35	8	13	2	4	13	11
	テナガエビ			8					1		
	シナヌマエビ				2						
タウナギ											
ブルーギル										1	
ガサガサによる捕獲種	モツゴ	○	○	○	○			○		○	○
	ギンブナ		○								
	タモロコ	○		○							
	ツチフキ										
	タイリクバラタナゴ	○	○	○	○						○
	ヨシノボリ		○					○			
	ヌマチチブ			○	○			○			
	スジエビ	○	○		○			○		○	○
	テナガエビ			○	○						○
	シナヌマエビ	○	○								○
タウナギ		○								○	
ブルーギル		○		○				○	○		
貝類	ドブガイ生体			4				9		3	
	イシガイ貝殻							4			
	カラスガイ貝殻							2		○	
	カワヒバリガイ							○			
	ナガエツルノゲイ	○								○	
	オオバナキンバイ	○								○	

※移動中確認した魚類 ハクレン、ボラ、ゲンゴロウブナ



- 魚類ではモツゴ、甲殻類ではスジエビが、これまで同様に優占種であることに変わりはなかった。
- 二枚貝：ドブガイ生体の生息数も下流域は以前通り変化はないが、手賀沼大橋上流域では生体は見られなかった。
- 特定外来植物のナガエツルノゲイトウ、オオバナキンバイは昨年の調査では見られなかった岩井新田まで侵入したことが確認できた。